

## 《第3分科会記録》

講師：西道弘（国立大学法人九州工業大学名誉教授）

ファシリテーター：真鍋和義（キュウセツAQUA(株) 顧問）

記録：徳丸浩二

参加者：16人

【テーマ】再生可能えねるぎ事業のあり方～ESDの視点から～

### 【講演内容】

◆西道弘氏の講演「再生可能えねるぎ事業のあり方」を聞いた後、内容についての質疑応答があり、その後に「ESDの理解を深めるためにどうしたらいいか」の議論をした。

◆講演および質疑の中では、

- ・地球温暖化を気にしている高校生が多い。心配させない取組が必要。
- ・木質リサイクルの乱立、輸入材チップ使用の問題提起
- ・エネルギーの地産地消化
- ・大分では、地熱発電・温泉熱有効利用が進む
- ・ホンジュラス・ニカラグアなど中米の国では、7～8割が再生可能エネルギーなどの課題や情報が示された。

◆ESDの視点は、下記4点にまとめられた。

- ・ライフスタイルまで切り込む
- ・ITで家庭で使用中のエネルギーを見える化する
- ・採算性ない場合は、行政の支援が不可欠
- ・ネットワークを組むこと、楽しくやること

### 【グループディスカッション】

（具体例・意見として）

1. 熊本県で水力発電会社を立ち上げた時に、該当地域に説明して回ったが、このことがESDになるのではないか。
2. 太陽光発電パネル導入、風力発電所建設（響灘地区）等は、はエネルギーを考え直すきっかけにする。
3. 家庭のエネルギー診断（うちエコ診断）でESDする、エネルギーを考えてもらう。
4. ドライブレコーダーなどITで見える化し、収集運搬車両の削減をした例から、目に飛び込んでくるデータがあることが大切である。

5. 熊本県環境センターでは、熊本県の小学5年生全員にセンターにきてもらい、年1回90分の環境学習を行っている。学校のESDの場である。